

平成28年第4回七戸町議会定例会
会議録（第3号）

平成28年12月7日（水） 午前10時00分 開議

○議事日程

日程第1 一般質問

質問者 岡村茂雄君 外2名

「質問事項及び順序（別紙）」

○本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

○出席議員（16名）

議長	16番	田嶋輝雄君	副議長	15番	三上正二君
	1番	二ツ森英樹君		2番	小坂義貞君
	3番	澤田公勇君		4番	呷清悦君
	5番	岡村茂雄君		6番	附田俊仁君
	7番	佐々木寿夫君		8番	瀬川左一君
	9番	盛田恵津子君		10番	田嶋弘一君
	11番	松本祐一君		12番	田島政義君
	13番	中村正彦君		14番	白石洋君

○欠席議員（0名）

○説明のため会議に出席した者の職氏名

町長	小又勉君	副町長	似鳥和彦君
総務課長	鳥谷部昇君	支所長 (兼庶務課長)	八幡博光君
企画調整課長	高坂信一君	財政課長	金見勝弘君
地域おこし 総合戦略課長	田嶋邦貴君	会計管理者 (兼会計課長)	加藤司君
税務課長	鳥谷部勉君	町民課長	甲田美喜雄君
社会生活課長 (兼城南児童館長)	氣田雅之君	健康福祉課長	田嶋史洋君
商工観光課長	附田敬吾君	農林課長	天間孝栄君
建設課長	仁和圭昭君	上下水道課長	原田秋夫君
教育委員会委員長	附田道大君	教育長	神龍子君

学務課長	中野昭弘君	生涯学習課長 (兼中央公民館長・ 南公民館長・ 中央図書館長)	鳥谷部 慎一郎 君
世界遺産対策室長	小山彦逸君	農業委員会会長	高田 武志 君
農業委員会事務局長	町屋 均 君	代表監査委員	野田 幸子 君
監査委員事務局長	原子保幸君	選挙管理委員会委員長	古屋敷 満 君
選挙管理委員会事務局長	甲田 美喜雄 君		

○職務のため会議に出席した事務局職員

事務局 局長	原子保幸君	事務局 次長	中村 孝司 君
--------	-------	--------	---------

○会議を傍聴した者（9名）

○会議の経過

一般質問通告一覧表

順序	質問者氏名	質問事項	質問要旨
4	岡村 茂雄 君 (一問一答式)	1. 若者の定住対策について	(1) 七戸町は人口減少率が高いと言われるが、若い世代や子どもが減少する要因の検証と対策について伺う。
			(2) Uターンや移住を希望する人に対して、今後の対策をどのように考えているか。
			(3) 基幹産業の農業を活かした町づくりは、人口減少対策に効果があると思うが、どのように考えているか。
5	瀬川 左一 君 (一問一答式)	1. 人口減少対策について (結婚問題)	(1) 各種婚活事業の取り組み成果と分析、今後の取り組み目標について。
			(2) 事業所を単位とする婚活取り組みへの助成について。
			(3) 趣味のサークルを単位とする婚活取り組みへの助成について。
6	白石 洋 君 (一問一答式)	1. 当町にゆかりのある方を招いての講演会について	(1) 七戸町にゆかりのある八戸市長小林眞氏、みちのく銀行頭取高田邦洋氏の御両人をお迎えし講演会を開催してはいかがか。
		2. 台湾明華中学校と我が町の中学校との交流について	(1) 交流に至った経緯と今後の交流計画について。
			(2) 国際交流協会の必要性について。
		3. 旧七戸地区商店街でのにぎわいやイベントのあり方について	(1) 街中での空き地の利用、整備について。 (碎石を敷いて駐車場としての利活用を)
4. 町の方向性は	(1) 長期総合計画・過疎計画について。		

○議長（田嶋輝雄君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は16名で、定足数に達しております。

したがって、平成28年第4回七戸町議会定例会は成立いたしました。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

○日程第1 一般質問

○議長（田嶋輝雄君） 日程第1 昨日に引き続き、一般質問を行います。

通告第4号、5番議員、岡村茂雄君は、一問一答方式による一般質問です。

岡村茂雄君の発言を許します。

○5番（岡村茂雄君） おはようございます。

きのうに引き続き、一般質問ですけれども、私からは、3点通告してあります。

若者定住対策についてでございますけれども、その中でも、七戸町は人口減少が高いと言われますが、なぜそういう減少が起きているのか、その要因と対策でございます。2点目は、Uターンや移住者対策をどのように考えているかということです。三つ目としましては、農業を生かしたまちづくりで人口対策ができないか、この3点でございます。

詳細につきましては、質問者席から質問いたします。

一つ目の、若い世代や子供が減少する要因の検証と対策についてでございますが、人口減少は、町の産業や経済が衰退して、町そのものの存在が脅かされるという心配がされておりますが、当町も少子化と若い人たちが町外へ出ていくことが、人口減少の最も大きな要因となっております。少子化と人口減少は、全国的な傾向で、当町に限ったことではありませんが、東京を初め、大都市へ人口が集中していること、地元の雇用や所得水準の低さ、結婚に対する考え方や生活スタイルの多様性など、さまざまな要因が考えられますが、当町の人口減少率が高いと言われており、そのことが問題でございます。

町の総合戦略、人口ビジョンでは、男性未婚率の高さを主要因とした若い女性の減少と、普通出生率や婚姻率の低さを人口減少の大きな要因として上げております。

また、しちのへ未来のまちづくりプランで実施した、七戸高等学校の生徒に対するアンケート調査では、70%近くの生徒が、卒業と同時に七戸町から出ていきたいと考えています。また、七戸町に住み続けたいと答えている生徒の中でも、40%近くが20代での転出を考えているとなっております。その理由として、ひとり暮らしがしたい、自立したい、専門的知識を身につけたい、都市部で仕事をしたいことを上げております。

また、進学で町外へ出ていった場合でも、約84%の生徒は、卒業後も七戸には戻らないだろうと回答しております。七戸町に戻らない理由として、都市部で生活したい、七戸町にはつきたい仕事がないことが上げられております。

また、既婚者への子供の数に関するアンケート調査では、現在の子供の数は、子供がい

ないが約14%おります。子供が1人が約27%、2人が約48%になっております。合計しますと、約90%近くが子供がいない、あるいは、いても2人以下となっています。希望としては、3人と答えた人が約30%おりますが、町では現実的には難しいと感じている人が多いのではないかと見ているようです。

特に、当町の人口減少率が高いのは、男性の未婚率が高いこと、若い女性の減少が大きいこと、普通出生率が低いこと、この3点が大きな要因としております。このことについて、なぜそういう傾向が大きいのか、他町村と違う要因はどこかにあるのではないかなど、その背景にある地元の雇用や所得の状況、若い人の結婚に対する考え方などを検証した上で、効果ある対策を講じる必要があると思います。

また、若い人たちが地元で暮らすためには、安定した仕事は当然のことですが、楽しめる場所や、気軽に交流できる場を創出することが求められております。これは若い人に限ったことだけではないと思いますが、このような観点から、人口減少の大きな要因とされる、先ほど指摘した3点と、快適な生活の場の創出について、その検証内容と、それに対する具体的な対策について伺います。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） お答えいたします。

まず、男性の未婚率が高いこと、これは若い女性の数の減少によることが、その要因の一つと考えられます。また、若い女性の減少については、転出者数は男女ほぼ同数ですけれども、その転入する人、これは若い女性の比率が非常に少ない状況にあります。婚姻等によって、転入する女性が少ないことが一つの要因としてと考えてられます。さらに普通出生率、これが低いのは、女性の数の減少によるものであり、その要因は男性の未婚率の高さと考えられます。これらの要因を検証すると、男性のその未婚率が高いということが、まず大きい要因であると考えます。

男性の未婚率の高さとして、夫婦の働き方、それから子供の数、子育ての仕方など多様となった現在、こうした選択肢の中から結婚相手を見つけるということが難しいと、こういったことも要因として考えられます。

若者は、結婚願望はあるけれども、その実現に向けて誰かに背中を押してほしいと、そういう思いもあることから、男女の出会いの場を創出する婚活事業の支援を進めていくことが必要であると考えています。

次に、快適な生活の場の創出ですが、若い世代はこの町に娯楽・遊ぶ場所、そういったものが少ないことを課題に挙げております。小さい町では、どこも同じ課題を抱えていると思いますけれども、今年度、高校生が商店街の空き店舗の活用を協力してコミュニティスペース、これは石源さんの協力を得てやっていますけれども、気軽に交流できる居場所づくりを行っていたら、非常に多く集まってきているということです。

また、こういったものに引き続いて、第2弾、第3弾、こういったものも今、実施したいと、具体的に検討をしておりますが、こういう取り組み等を進めていくことも、一つの

快適で楽しい居場所づくり、そういうものにつながっていくというふうを考えております。

○議長（田嶋輝雄君） 5番議員。

○5番（岡村茂雄君） 今の答弁の中で、若い女性の転入がすごく少ないようなことを上げておりますけれども、これはなぜかということをやっと聞きたいところがありますが、もう一つは、町長も言っていましたけれども、若い人が結婚にはそれなりに関心があると。確かにそうなんですけれども、ただそれを選択しようとしなくて、こういうことがよく言われております。結婚したい気持ちはあるのだけれども、何かそれを選択しない、結婚しない方向に向かっているということですが、アンケート調査のあれを見ますと、若い人が結婚していない理由として、男女とも50%近くの人が、出会いの機会が少ない、それを上げております。そして出会いの場としては、いわゆる婚活のイベントとか、お祭りなどの地域イベントでの交流を望んでいるようですが、しかし男性の約半数が婚活や地域イベントでの出会いを望んでいますが、女性では、その割合がかなり低いとデータが示しております。

このアンケート調査で、もう一つ注目したいのは、結婚していない理由として、男性の35%近くが、経済的に難しいということをやっています。それと、結婚したいと思わないという女性が50%近くあるということです。これは男性でも25%近くありますけれども、皆さんも、子供は欲しいが結婚は余り考えていない、そういう意味のことを聞いたことがあると思います。それがそのままであれば、子供は欲しいけれども、結婚したいと思わないために、子供はなくてもしょうがないやと、そういうことになっていくのではないかと思います。こうなれば、ますます人口減少に歯どめがかからなくなっていくと思いますが、この要因は何でしょうか。経済的なものなののでしょうか、それとも結婚という、そういう結婚観という束縛みたいのがあるのでしょうか。また、何かによる社会現象なのか、その辺は検討する必要があると思いますけれども、私たちは若いころは、年ごろになれば周りから、おい、まだ一人でののか、早く結婚しろと、そういうふうに言われれば、だんだん何かそれみたいな感じで結婚していたという、そのような気もしておりますけれども、結婚しないとか、しようと思わない若い人がふえていることに、これをどのようにとらえているのでしょうか。また、ダブると思いますが、何かいい対策がないか、その辺をお伺いします。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） 結婚したくない、しないと、結婚観というのは年々変わってきていると、あるいはまた、さまざま生き方の多様化と、そういうことも一つの要因かと思っておりますけれども、男性の未婚率が高い要因の一つに、現在の結婚生活において夫婦の働き方、それから子育ての仕方など、多様な選択肢があろうということや答弁いたしました。これは男性に限らず、女性にも言えることだと思っております。若い男女の結婚に関する考え方、これは年齢層によっても違いますけれども、まだ早いと、あるいはまた必要性を感じ

じない、経済的に心配、あるいはまた仕事が忙しい、仕事と家庭の両立、これが非常に煩わしい、困難、さまざま考えられると思います。結婚するかしないかについても考え方の自由度、こういったものが特に現代は高まっていると思われま。

こういう背景において、これらの対策として、現在その男女の出会いの場の創出のための婚活の支援事業、これを行っておりますが、少数制、あるいはまた、年齢層別にいろいろ工夫した取り組みも必要になってくるものと考えております。

また、多種多様な考え方があるという中で、今後の結婚支援については民間の事業者、これは1回やりましたけれども、非常にやっぱりそれなりの実態を把握しているということで、いわゆる結婚まで到達する可能性が非常に高いということで、そういった活用も含めて、その対応を検討しているところであります。

○議長（田嶋輝雄君） 5番議員。

○5番（岡村茂雄君） 私も婚活のこれについては、私もいろいろ聞きたいところもあったのですが、何か次の方が控えて、それに集中しているので、協力して次に移ります。

Uターンとか移住を考えている人に対する対策でございますけれども、少子化と若い人が町から出ていくことで、七戸町の人口が減少しているわけなんです、町外へ転出した20代から30代の人に対するUターンの意向調査がありますけれども、これを見ますと、回答者の40%近くの人が、七戸町へのUターン意向があると答えています。また、Uターン意向者の中で、20代から30代でのUターンを考える人が半数以上おります。その理由の多くは、ふるさとだから、家族や友人がいるからということが多くなっております。

また、移住者については、詳しい資料とか調査はないかと思しますので、政府が東京都内の在住者に行った意向調査を見ますと、移住の理由として、出身地だから、家族や親戚、知人など親しい人がいるからという理由が最も多くなっています。スローライフや、自分に合った生活スタイルや、食べ物や水、空気がおいしいからという、そういう方も結構多くあります。しかしこの調査では、何歳ごろに移住したいのかということが、ちょっと出ておりませんが、移住に当たって、生活コストや買い物とか交通の利便性、また、仕事、医療、福祉の充実、これらを重視しているように感じます。また、移住するにしても、そこに仕事がないことを上げている人が約40%おります。Uターンを考えている人は、ふるさとに帰りたいという思いが強いと思います。しかし、Uターンの意向調査のデータにはありませんが、移住を考えている人と同じように、仕事のあるなしをやっぱり優先的に考えているのではないかと思います。

町でも、子育て中の若い人のUターンに大きな期待をしておりますが、町外へ出ていった人にとって、帰りたくても地元には仕事がないことが一番の問題だと言えます。これは地元には仕事がないから出ていく、そういうことにもなると思います。

総合戦略では、居住環境とか、子育てを支援することに重点を置いているようですが、

仕事とか生活環境の整備について対策を強める必要があると思いますが、どのような対策を考えているのか伺います。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） 総合戦略の基本目標では、七戸町に経済をもたらす、しごと・雇用を創出することを目標としております。政策分野では、地方創生の拠点施設となる道の駅の機能強化と雇用の創出、実はこれを掲げております。

今後、道の駅は観光総合の窓口、それからインバウンド観光、産業振興、地方創生等促進と、それから防災の拠点、こういった機能としての役割を果たしていくこととなります。これら機能を強化していくためには、観光分野、それから農業分野一体とした取り組みというのが必要であり、そのことがそれぞれの分野の雇用創出につながっていくと考えております。

また、七戸らしさの一つに地の利が上げられます。新幹線、国道4号、394号、上北自動車道など、周辺市町村へのアクセスにおいては非常に利便性が高いということから、町を拠点に就業ニーズに対応した、いわゆる周辺市町村と一体となった仕事の確保といたしますか、通勤エリアを拡大して、そういったUターン希望者の仕事、あるいはまた生活環境整備、こういったものに努めていかなければならないというふうに考えています。

○議長（田嶋輝雄君） 5番議員。

○5番（岡村茂雄君） このUターン対策というのは、仕事とかいろいろなことが求められていると思いますので、その対応も、これという決め手はないかと思いますが、見ますと若い人たちが町外へ出ていくというのは、やっぱり自立したいとか、自分に合った仕事がしたい、やっぱりまた都会で生活したい、何か都会のほうに若い世代が非常な夢を抱いているようですけれども、たしかにそれは地元に残っている人も、その都会に対するあこがれがあると思います。しかし、Uターン者には失業とか、どうしてもやっぱり帰らなければならないと、そういう事情の人も相当数あると思いますが、その人たちが望む仕事が地元でない、やっぱりそれが一番支障になっていると思います。何でも仕事にありつけたらいいんじゃないかと、そう言ってもらいたい気持ちもあるのですが、それではちょっと町としての姿勢が疑われると思います。

私から言わせれば、七戸町は町の事情に沿った業種が多くて、好きとか、やりたいやりたくないにかかわらず、誰かがやらなければならない、そのようないわゆるいわば受け身型の産業構造になっているのではないかと思います。商品とかいろいろなサービスを県外へどんどん発信していくような、そういう業種は結構少ないと思います。そのようないわゆる受け身型の仕事というものに対して、若い人たちが本当に誇りを持って働いてくれているのか、ちょっと心配です。私にしてみればいわゆる発信型、そういう仕事にやっぱり魅力を感じていると思います。

例えば、総合戦略の中で、介護関係の事業所で慢性的な介護職員の不足に悩んでいるということが上げられておりますけれども、これは労働がきつい割に給料が安いということ

から、都市部です。特に東京ですけれども、景気がよくなったと言われた途端に、介護事業所の離職者がどんどんふえまして、急増して人員確保に非常に支障が出るという、そういう経緯がありました。このことは、景気がよくなることで福祉関係の雇用が厳しくなる、何かそういうことを示しているように思います。

若い人たちが望む仕事や、Uターン意向者を迎え入れる対策は、町独自では極めて難しいと考えますので、一つの方法として、上十三地区定住自立圏構想がありますけれども、そういう中で広範囲な面からも対策を考える必要があると思いますがいかがでしょうか、どう思いますでしょうか。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） 仕事を選ぶ場合、やはり自分の希望に合ったというか、働きがいのある、誇りを持って仕事をできるような、そういう仕事を誰でも選びたいと、そう思っていると思います。

福祉関係も決して悪いわけではないし、当然社会に必要な分野であり、それを希望してそこに働く人もおります。ただ、町だけでUターンする方、あるいはまた、新規に卒業して社会に出る方に対しての仕事の場というのは、残念ながら全て満たすわけではないということで、当然これは他のやっぱり周辺の自治体にも広げて、その就業の場を求めると。ですから、今後、通勤しての仕事の就職と、こういったものも考えていかなければならないということでもあります。

議員おっしゃるとおり、そこで定住自立圏構想というのがありますけれども、いわゆる定住自立圏は、こういったものをお互いにあっせんするという場ではないということでもありますので、いわゆるそれを抜きにしても、やっぱり隣の町、隣の市と、そういったところへの就業の場を求める、そこへ通勤すると、こういった形での就業の場の確保というのも、いろいろPRしながら進めていくようにしていきたいというふうに思います。

○議長（田嶋輝雄君） 5番議員。

○5番（岡村茂雄君） 確かに、このUターン、町でも非常に期待しているわけなのですが、なかなか実現は難しいというのがありますけれども、私はちょっと提案したいのですが、今の仕事を、職場を選ばない、必要ないみたいなフリーな職業の人が結構おりますけれども、そういう人たちを呼びかけることができないのかということについても、ひとつ伺います。

これはシェアオフィス、個人事業者などが共同で利用できる仕事場というイメージで、会議室とかインターネット回線など、そういう設備を整えている施設なんですけれども、それが若手の起業家とか、場所や時間を選ばずに仕事ができる作家とか、デザイナーなどのクリエイターと言われますけれども、そういうことが都市部では、大分ふえているようですけれども、これは通勤地以外で仕事をするテレワークとかそういうものの普及で地方に広がってきていると言われております。これはまた、利用者同士が交流できることも人気の一つになっているそうでございます。

これは奈良県東南部の山合いにある急激に人口が減少した、人口約1,700人の東吉野村というところなんです、ここに体調を崩した若いデザイナーの移住者が、田舎で活動したい、全国にそういう作家とかデザイナーたちがたくさんいるはずだということで、その発想を村長に提案したところ、村長もなるほどということで、仕事を選ばない作家とかデザイナーなどの拠点づくりとして、その事業を始めたそうですけれども、これは築70年の空き家を四つの部屋、仕事場に分けて、あとミーティングするスペースをつくって、1日500円か幾らで利用できるインターネットとかそういう通信設備を整えまして、これは改装費に2,000万円ほどかかったそうですが、平成25年に開設してから、30代を中心にデザイナーとかカメラマン、陶芸家などが14世帯、31人が移住しているそうです。それに手応えを感じた村長は、空き家を利用した、そういう施設をふやして、スローライフに憧れる作家たちの理想郷となる日を願っていると聞いております。

このような仕事の場所を選ばない職業の人を呼ぶことができれば、町にまた新たなにぎわいが出てくるのではないかと思います。町にはまた新幹線もあるし、その周辺は牧場に囲まれており、のどかな風景に恵まれておりますから、非常に町の魅力を発信できるのではないかと思います、そのような対策を進めることは考えておりませんか。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） お答えいたします。

かつてお話ししたこともありました。いわゆる場所を選ばない業種というのがあるということで、その一つがやっぱりIT関連の仕事と。恐らく、2年ほど前ですけれども、むしろ東京で事業所を持って、非常に狭いところで、コンピューターのさまざまなサーバーとか、そういったものいっぱい並べてエアコンをがんがんにかけてと、だからこういうところよりも郊外のほう、むしろ田舎のほうがいいということでいろいろ検討をした、そちらの事業者の方も検討したことがありました。ただし、やはり当時、例えばWi-Fiの環境だとか、そういったものが非常にまだ悪いということで断念をした経緯があります。ですから、今、岡村議員おっしゃったとおり、もういろいろな職種で、場所はむしろ郊外の広々としたほう、あるいはまた涼しいほう、そういったものがいいよという職業がいっぱいあるということで、実は東京の県の企業立地推進課ともいろいろ協議をして、何とか一つぐらい七戸町にもというお願いはしております。

それから、具体的に今、検討しているところもあります。七戸町出身の、いわゆるそういうIT関連の仕事をしている方ですけれども、実現するかどうか、これからですが、やはりそれに限らず、いろいろ今、言った陶芸であるとか、周辺環境、あるいはまた交通環境、これも非常にいいわけですので、そういったことを念頭に呼び込むような努力、検討、これはもう、これからも大いにしていかなければならないと思っております。

○議長（田嶋輝雄君） 5番議員。

○5番（岡村茂雄君） 本当は、個人で自由に仕事をしているわけですから、とにかく場

所を選びませんので、非常にこれは声をかけやすい、また、そういう面があるのでないかなと思っております。

実は、私の娘が細々ながらそういう似たことをやっているのです、ああなるほど、こういう仕事ってあるんだな、いいんだなと、そういう思いをしていたものですから今回、質問したわけです。ぜひ、余り大々的に会社を引っ張ってくるとか、そういうのも必要でしょうけれども、そういう楽しい人を呼び込むのも、これもいいんじゃないかなと思いますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

では、次ですけれども、基幹産業である農業を生かしたまちづくりで、人口減少対策に何とか効果が出ないかということなのですけれども、T P P問題をめぐって、今さまざまな議論がされておりますが、農業分野では、安い農産物が輸入されれば消費者などにメリットがありますけれども、それによる損失のほうが大きいということが問題視されております。

農業は、基幹産業の青森県とか七戸、当町にとっては相当の打撃を受けることになるのではないかと心配されます。しかし、農業は農産物の生産だけでなく、景観の確保とか保持とか、自然災害などにおいても重要な役割を持っているため、地域に大きく貢献しております。その農業を守ることは、私は国の責任であると思います。しかし、町としても農業振興を経済の活性化や人口減少対策につなげることが重要だと思います。

この前、T P Pに関連した青森県の農業の強さと課題という勉強会に参加しましたが、農業所得が350万円以上の農家が多い市町村は、若い農業者の割合が多いという県内の各地域ごとのデータが示されておりました。

また、町の過疎地域自立促進計画でも、合併後の産業構造について、就業人口では農業が、ほとんどの第1次産業の減少が著しいとしております。しかし、総生産額を見れば、第2次産業のほうが減少率が大きいのに対して、第1次産業は7%、8%余りの減少にとどまっています。そういうことから、農業は町の基幹産業であると位置づけて振興させることを掲げています。

当町では、350万円以上の農家は5%未満ですけれども、就業人口が激減しているにもかかわらず、総生産額が余り減少していない、これをどう見ているのでしょうか。農業所得が350万以上の農家がふえることは、農家の意欲、若い人の定住につながると考えられます。総合戦略では、農業所得を向上させるために、収益性の高い作物や生産性の向上、新たな付加価値の創出としての6次産業化、新規就農者をふやすことを主要計画としていますが、そのやり方ですけれども、どんなふうに進めるのか伺います。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） お答えします。

総合戦略に農家所得350万円、これを目標に掲げて収益性の高い作物への転換、それから新たな付加価値の創出、生産性の向上と、これを柱に各種事業、こういったものを展開しております。具体的には、水稻の単作からの脱却、複合経営の転換を目的として、

県、それから農協、農家と連携をし、野菜生産力向上5カ年計画、これを策定いたしました。町の重点振興作物等の作付面積拡充等、野菜の生産力向上を目指すとともに、農産物の生産をベースとした加工、販売、サービス提供などの6次産業化、これを推進するために、農協及び各農家へいろいろな補助事業、これを実施しております。

また、基幹産業である農業の従事者の高齢化、それから就農希望者の減少などから、魅力ある農業経営の構築、これは喫緊の課題であります。したがって、町では新規就農者の増加のために、基盤の不安定な、その新規就農者に対する不安解消のための支援策、これは国の青年就農給付金事業等を活用しながら、町独自のその上乗せをしたり、事業はもちろん県、あるいは農協と連携をし、新規就農者のその相談指導体制、こういったものをとっているところであります。

○議長（田嶋輝雄君） 5番議員。

○5番（岡村茂雄君） ささまざまな広い対策が必要となるから、なかなか大変だと思えますけれども、私はこの中でやっぱり一番気になるのは、付加価値を出せるということ、ここがこれから必要になってくると思います。

それで再度聞きますけれども、合併後に第2次産業の生産額が減少していますが、これは第2次産業はどうしてもやっぱり公共事業の影響が大きいのではないかと思います。しかし農業関係は、就業人口が激減している割には、農業生産額が減っていないということです。やっぱり町の基幹産業として、安定させる必要があると思います。

総合戦略で農業所得が350万円以上の農家を平成31年度まで、約2.5倍ぐらいにふやすという計画を立てております。目標を立てておりますが、それには一定程度の規模拡大とか設備投資、雇用の確保、農家自身の対応もそれなりに必要になるということもあり、みんながみんなできるとは思っておりません。ある程度の農家に限られてくるのではないかと思います。それにしても、また6次産業化などの付加価値をつける事業が農業所得の向上や地元経済に効果が出るのは、町長もわかっているとおりだと思いますが、さきのUターン者対策のところでも言いましたが、何か若い人たちに発信的な、そういう仕事を求めているんじゃないかなと思います。

私にしてみれば、この6次産業化は地元の、町内外に発信できる、そういう仕事で、事業であると思いますが、町長はその辺をそう思っていると思いますが、確認いたします。

そして、やっぱり付加価値の高い特産品とか商品開発を進めて、それに地産地消とかも含めて、複合的に農業所得の向上を図れば、農業を生かした発信型のまちづくりというのができ上がっていくんじゃないかと思います。

この付加価値の高い特産品開発や、地産地消を強力に進めることが重要だと思いますが、町長はどういうふうに進めたいと考えておりますか。また、何か今、考えているいいのがありましたら示していただきたいと思います。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） お答えします。

今、町内ずっと見回してみますと、農業でも具体的にもう6次産業、産業としてしっかりやっている事業者といますか、そういう人もいます。それに近いような人もいます。大部分はまだまだ農家の台所で加工して道の駅に売ると、その程度で、まだ産業にはならない、それが大部分ですけれども、それでも今の実態を調べてみますと、いわゆる農業からリタイヤして、世代を交代して非常に若い人が大規模な経営をやっていると、そういうのがふえてきています。いわゆる若返りというか、ですから頭を抑えられることなく、割と自由な発想で、今おっしゃった発信型、広く全国の市場に向けて、あるいはまた消費者に向けてのいろいろな発信をする、そういった経営もぼちぼちあらわれてきていると、非常にいい傾向だと思います。

本来の、まあ何となく農業を継いでいるのから、やりたい、あるいはまた、みずからの創意工夫でどんどんやっている、そういう人がふえてきているというのは、これからの町としては大きい一つの希望になると思っていまして、こういった方々については創業支援だとか、あるいはまた新規就農の関係でも、さまざまな対策を講じて支援をしていくと。いかにこれ、先にこれを取り込むのが、一つの勝負になると思いますので、まあその辺は、いろいろ実際やっている人の意見を聞きながら、あるいはまた関係機関と連携をとりながら、こういったことで推進をしていかなければならないと考えています。

○議長（田嶋輝雄君） 5番議員。

○5番（岡村茂雄君） こういう政策的なものは、話しをすれば幾らでも出てくるわけですが、きょうは人口減少のその要因、原因は何なのか、そこをひとつ絞って質問しておりましたので、これ以上質問しても、私も大変だと思います。

それにしても、若い人がいなくなるということは仕方がないとしても、それに対するやっぱり定住対策を強化していかなければ、幾ら子育て支援しても、給食費無料にしても、結局、若い人は都会へ出ていってしまう。そして、戻りたくても仕事がないとかで帰れないとなれば、今までと何も変わりがない、この繰り返し、むしろ悪いほうが強まっていくと思いますので、そういうことをぜひ強力に進めて、高齢者だけの、いわゆるうば捨て山のそういう町にならないように期待して、私の質問を終わります。

○議長（田嶋輝雄君） これをもって、5番議員、岡村茂雄君の質問を終わります。

次に、通告第5号、8番議員、瀬川左一君は、一問一答方式による一般質問です。

瀬川左一君の発言を許します。

○8番（瀬川左一君） みなさん、おはようございます。

早いもので、今年も残すところ1カ月を切ってしまいました。例年になく雨も多く大変な年でした。その中でも、米はややの良で、ナガイモ、ゴボウについては非常に雨が多いため、穴落ちなどで不良が続く、種もないと騒がれております。また、全ての野菜が高騰している現在です。

それでは、一般質問に入ります。

私は、人口減少対策（結婚）ということで質問させていただきます。

この質問については、今回で2回目です。人口減少は大きな社会問題となっております。我が七戸町も、このままで行くと町の明かり、集落の明かりも、だんだん消えていくのではないかと心配されます。今回、一番の問題は結婚して家庭を持つ、そして家族を持つ、家族がふえるということが、一番の第一条件だと思います。そのためには、原点を見直すことが私たち時代の、20代、30代のころは、全ての男女が結婚しました。40年を遡って考えてみると、結婚できない必要性は何であるのか、参考にすべきところがたくさんあると思います。若い人に結婚を、大人が手助けをするのが大事だと思って、私は考えている次第でございます。

それでは、質問席から質問させていただきます。

まず1番に、各種の結婚事業の取り組み成果と分析、今後の取り組みの目標についてということですが、これまで七戸町では若者の移住促進、地域おこし総合戦略課などを立ち上げ、婚活ツアーや、趣味による婚活活動に、コスプレd eおぼけやしきを実施してきました。その後はケーキづくり、クリスマスパーティーなど、ドキドキ鍋コンなど予定しております。また、アウガによる結婚情報センターの事業協定、結婚支援事業として入会金、活動初期費用を8万3,700円を補助しています。その他、農業委員会でも結婚の取り組みをしていると思います。

その1点の質問の中で、各種の結婚事業を取り組み、その成果分析、今後の取り組み等の目標についてお願いします。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） お答えいたします。

各種その婚活事業については、昨日、二ツ森議員の一般質問でも答弁いたしました。その婚活の支援事業の分析についてですが、婚活ツアーの取り組みは、今回、女性参加者の募集も含めて、民間の事業者であるノツツェというところに業務を依頼し、実施をいたしました。これは、全国で会員がいると、いわゆる結婚をしたいと、そのめぐり合わせのための、やはりそういう希望を持っている人が、全国に会員として数万人いるということであり、そしていわゆる今回は、遠くは愛媛県、あるいは首都圏、岩手県、青森県と、それぞれ各方面から本当に結婚を真剣に考えている人、そういった方々が参加いたしました。したがって、年齢もほとんどが30代から40ちょっと超えた方もありました。ですから、したいという願望を持っている人もいっぱいいるということです。

そして、そのイベント進め方自体も、民間事業者ならではの進行であり、結果として6組のカップリング、お互いに気が合って、これから交際をするというのが成立しました。この中から1組ぐらい結婚まで進んでいけばいいなというふうに思っておりますが、その趣味コン、それから結婚相談所、いわゆる今言ったノツツェとの事業協定については、今年度より実施している事業であります。まだ事業が終了していません。したがって、成果分析についてはこれからと。さっき言ったとおり、何としても1組ぐらいは成立してほしいものだと思っております。

これからの取り組む目標については、結婚したいと思っても、自分から積極的にイベント参加や結婚活動がうまくできないと、実はそういう人も多過ぎるということですから、それぞれの地区の人たちが、その背中を後押しできるような、ある程度の体制づくり、これもやっぱり必要であろうと思っております。

かつて世話人がいて、会えば大体そこで成立したという時代ではなくなっているというのも確かですので、その辺の組織づくり、後押しする人づくりというのは、本当にこれから大事な課題であると思っております。

○議長（田嶋輝雄君） 8番議員。

○8番（瀬川左一君） 今この8万3,000円の援助というのは、多分まだ一人もなされていないということであるように聞こえますが、多分そのとおりだと思いますが、こういうふうに関、戦略課の中でも、やっぱり人口が大変だということで、こういうふうな課を設けながら婚活事業とかいろいろなのを取り組んでいるのだけれども、婚活というのは非常にいろいろなところから来て出会いがあって、その後の交際は非常に、二人での交際ということで、なかなか結婚までは至るということは、なかなか難しいんじゃないかなというの、きのう町長の答弁の中にも、ちょっとありました。そういうことで、結婚支援センターは、結婚したい人が集まるということでも、結婚を前提につき合っていくというような形の中で、後押しされていくということが、私は一番いい条件ではないかと思っております。これには、どしどしやっぱり支援していかなければならないと思っております。

それで、きのう佐々木議員のほうから教育問題について、非常に教育については、24名の教育者がいて、町の教育をすっきり支えているんだということが臨時教職員の中でありましたが、私たち、この結婚問題についても、嘱託を設けながらも、やっぱり戦略課が窓口になって、やっぱり結婚するんだというような、その申し込みの中で、ものを進めたり、地域の集落の町内会長、それらと一体となって、やはり町を盛り上げていかなければならないし、ひいては県南地区を一体とした、七戸ばかりじゃなく、野辺地、この県内が一体となって盛り上げて、そして申し込んだ人はもう結婚するのだと。昔はやはりそういう人の気持ちを見るだけじゃなく、周りはずんずん結婚していくと、もう私が何か遅くなっているような状態でも、30代と言えれば遅いという、そういうふうな時代の中で、それは昔も今も何も変わっていないということで、町長、この嘱託を設けたり、さまざまなもので教育にも力を注いでおりますが、町の明かりを消さないということが第一でありますので、その辺はどういうふうに関、やれるものかやれないものか、町でもそういうふうな取り組みができるのか、私はちょっとそこまでわからないのだけれども、答弁のほうお願いします。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） 農業委員会では、結婚相談員というのありまして、ボランティアですけれども、お世話をしながら婚活というか、そういったものをお世話する体制がありました。今も、もちろんあります。やっぱりそれと似たようなというか、町内会長でもい

いでしょうし、議員の皆さんでもいいと思います。その辺は、やはりある程度そういうアドバイスをする人をやっぱりつくるべきだというのは、やっぱり私もそう思います。ですから、これは今後、担当課に言って検討して、ある程度そういうお世話係を、何とか背中を強く押していくような人をつくって、結婚に結びつけるように、そうしていきたいと思います。

○議長（田嶋輝雄君） 8番議員。

○8番（瀬川左一君） せっかくの戦略課があつて、人口減少を防ぐとかさまざまな、それだけの仕事じゃないだろうけれども、定住、いろいろな事業には補助を出したり、さまざまなことを町も一生懸命頑張っていますが、そういうことで、できればやはり、今の若者も昔の若者も、何も変わっていないんだと、考え方は。ただ、若いときは誰でも恥ずかしくて、私も3回ぐらい見合いしたことがあります。何もしゃべれないで、もちろん断られたこともあります。まあそれを経験してみると、やはりもう、そのときは21歳か22歳のころだと思います。もう20代、30代と言えばもう遅い、誰も残っている人がいないという、そういう時代を含めて、やはりそういうふうな申し込みというのは、そういうふうなのに参加するということは、私は若い人たちがこれからそういうのを待ち望んでいと思っていますので、その点は戦略課でも、今、町長は相談してみてもいいと思いますので、今後の取り組みによろしくをお願いします。

そして、2番目については、事業所の単位で結婚する取り組みの助成についてということで、まず2点目ですが、私たちも、先ほどしゃべったけれども、若い人たちの独身の出会いは、世話役とかいろいろなので昔はしたけれども、今は何もなされてないというふうなことで、同じようなことなんですけれども、しかし現在は、市町村が取り巻く婚活関連の事業の当事者が、行動力、主体を置き、人を見る見込みの思い、いつまでも婚活の場に参加できない、参加できないでいることが、やっぱり自分の意思では恥ずかしくて参加できないという人がたくさんいるということでもありますので、その辺は事業の助成なんかの中でやられているのだけれども、私は、1番の中でも同じことの質問のようになりますが、婚活事業でも、やっぱりその後、カップルができました。そして今カップルができて、じゃあどれくらいの人が結婚に結びつかれたのかも聞きいたします。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） きのうの御質問の中でも、ある程度お答えしたのですが、民間の事業者を選定をした。なぜ選定したかという、それだけ会員の数が多い、それから事業所が県内にある、そして今まで成立したその実績、それもかなりある。どれくらいあるかというのは、今ここでちょっとわかりませんが、そういった過去の実績が非常に大きい、あるいはまたそういったことが非常になれている、いわゆるその背中の押し方もある程度わかまえているということで選定をしました。したがって、これからですけれども、やはりそういった、よく実績のある方々を主体に、事業所を主体に進めていきたいと思っておりますし、あるいはまた、さっき言った、町内でもそういう苦い経験がある、

非常にいい経験があるみたいですから、それ以上の方々も実は何人か多分、おありだと思いますので、そういうやっぱり適切なアドバイスをできるような人も選定をしながらやっていけば、ある程度の結婚に結びついていくような感じがいたします。そういうことで、まあ、いろいろ相談をしながら進めていきたいというふうに思います。

○議長（田嶋輝雄君） 8番議員。

○8番（瀬川左一君） 話を聞いていると、なかなか最後まで、結婚まで結びつくというのは、非常に難しいということも一理あります。それでも、やっぱりこれはあきらめず、進んでいかなければならないというような気持ちは、私は前から持っております。

私は、この中でもやはり七戸は、一つには結婚相談所があってもいいんじゃないか、そこには町内の町内会長、いろいろな中において、つくり上げていかなければならないし、そして後押しさせるのは、私たちも今まで、その時代において結婚してきました。いろいろな形の中で、そのときは、もうやはり大人が後押しをしてくれて、私たちは黙っていても、ものが運んで結婚できたということがありますので、それをやっぱりもう1回昔に戻って、また努力するということが大事ではないかと思えます。

そして、3番目の趣味のサークルによる単位別の結婚取り組みについての助成ということですが、七戸町にも趣味やいろいろなサークル、例えば、音楽でもよければ、スキーで、そういうふうなサークルがたくさんあると思います。女性たちがいる介護施設、そういうふうな中で女性たちを進んで結びつける出会い、今後どういうふうに戦略課でも考えたり、町長の考えもどういうふうに、この町に若者が集まる出会いを、婚活でもいろいろな形の中でイベントをつくっていきけるのかもお聞きしたいと思います。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） まず、今年度から、町では気軽に参加できるよう、趣味などを通じたいわゆる趣味コン、共通の趣味で集まると、そういったことを実施し、来年度も実施する予定であります。

まずは、こういった事業に参加していただけるような呼びかけ、これを進めてまいりたいと思います。

それから、民間の方々婚活事業への関心を持ち、自主的にイベント等を開催する意向があるかないか、こういったことについても、いわゆる確認をとりながら対応をしてまいりたいと思います。

実は今、昔みたいなお見合いというのはダサイということで、なかなかそれに乗ってこない。ただし、同年代の友達紹介というので結婚しているというのが、よくいろいろな結婚式に行っても、仲間の紹介、友達の紹介、こういったものがあります。したがって、大人の人たちがそういったのには余り乗ってこないけれども、まあ同年代か、あるいはまた趣味を同じくするとか、そういった人たちが、そういう面倒を見るのであれば、十分乗ってくるであろうというふうな感じがしますので、その辺のグループの育成というか、いわゆるお世話をする、そういったグループの育成というのをこれから検討して進め

ていきたいと。何としても結婚する人をふやすように、それがいろいろなその解決策に通じるといふふうに思います。そういうことで進めていきたいといます。

○議長（田嶋輝雄君） 8番議員。

○8番（瀬川左一君） いろいろなサークルの中でも、たくさんの趣味があるということで、それを町がまとめて進めていくということですが、なかなかやはり窓口というのか、そういうふうな結婚相談所というのか、そういうふうなものも非常に難しく、人と人とのあれがありますので、それはぜひとも頑張って、ひとりでも一日も早く結婚できるような体制をつくっていかねばならないと私は常に感じ、結婚相談所があつて、そこが窓口になって戦略課ともどもやっていかねばならないというのは、まあ一つ。

もう一つは、農業問題も非常に、後継者問題でも大きくなっています。そこで議長、農業委員長の方からも質問受けても、この中に通告がないですが、いかがでしょうか。

○議長（田嶋輝雄君） それは却下します。

○8番（瀬川左一君） わかりました。

それでは、まず町でも人口減少について、結婚問題については、そういうふうな職員を委託して、戦略課とともに、この町の相談をまとめながら、結婚するという人たちのもとに進めていくことを期待して、質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（田嶋輝雄君） ここで暫時休憩します。11時15分までです。

休憩 午前11時04分

再開 午前11時15分

○議長（田嶋輝雄君） 休憩を取り消し、会議を開きます。

8番議員の瀬川左一君の質問が終わりましたので、次に通告第6号、14番白石洋君は、一問一答方式による一般質問です。

白石洋君の発言を許します。

○14番（白石 洋君） 皆さんこんにちは。

ことしも、残すところ20日余りとなりました。窓の外では雪が舞い、鍋料理が恋しくなる季節を迎えるきょうこのごろでございますけれども、皆様方にとって、この1年間どんな1年だったでしょうか。

さて、私は一般質問2日目、最後の質問者になりましたが、4点にわたり一般質問を行いたいと思います。

第1点であります、当町にゆかりのある方を招いての講演会をしてはいかがか、ということでもありますけれども、一般質問締め切り後に気づいたのでありますけれども、日本相撲協会理事をしておられる、我が町出身の魁輝関、本名西野政章氏であります、本当に名誉町民にしても、いいほどの立派な方がおられることに気づきましたが、今回は通告しておるとおりの質問をしてまいりたいと、そう思っておりますので、よろしく願いをいたしたいと思います。

2点目の、台湾の明華中学校と我が町の中学校の交流については、台湾の方々教育にかける情熱、物すごいものを感じさせられました。アジアからの教育旅行生と青森県の中高生の国際交流、そして青森県のグリーン・ツーリズムとの連携等が盛んにとり行われておりますが、一昨日も青森県と平川市が台湾の台中市を友好交流の締結を結ぶなど、最近は特に、この台湾との交流があちこちの町村で行われております。

3点目の七戸地区商店街でのにぎわいやイベントのあり方については、空き地の利用で駐車場の確保を図ることや、まちの駅にかわる、まちの駅を創設してほしいことなど、そして4点目は、まちづくりの方向性についてであります。小又町長はどんな思いで3期目を迎えようとしているのか、そしてまた、七戸丸の船長として、どのような、かじ取りをしていこうとしているのか、お尋ねをしたいと思います。

それでは、この場からはこれぐらいにして、あとは質問者席において質問いたしたいと思っておりますので、ひとつよろしくお願いをしたいと思います。

それでは、質問に入ります。

この第1点目の七戸町にゆかりのある八戸市長、小林眞氏、みちのく銀行頭取高田邦洋氏との御両人をお迎えし、ぜひ講演を開催しては、いかがかという質問でありますけれども、御承知の方々もおられることとは存じますけれども、御両人の簡単なプロフィールや、お人柄を紹介しながら質問をしまいたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

まず最初に、小林眞氏は、昭和25年5月14日生まれで66歳になります。八戸市の白銀で誕生なされ、東北大学法学部を卒業され、昭和50年に青森県庁に入庁、昭和54年自治省、現在の総務省でありますけれども、入省し、平成3年、埼玉県の浦和市の企画部長、そして平成9年に自治省に復帰、平成17年、総務省の自治財政局の財務調査官を退職され、同年11月17日に八戸の市長に就任をされ、現在は3期目、八戸市民23万4,000人余のトップとして大活躍であります。

市長のお父様は七戸町の出身者であり、そのお父様の御兄弟が3人おられまして、お父様の名前は小林晋さんであります。95歳と伺っております。二人の妹さんたちも、はるさん91歳、やう子さん87歳、ともにお元気で七戸町に過ごされております。やうさんは七戸町の元助役でございました小野長さんの奥様でありますので、このことを聞くと、ああそうかというような感じになると思います。私たち町民にとっても、実に見事な身近な方々だと思っておりますし、市長のお父様は95歳という、この高齢にもかかわらず、みずから車を運転して八戸市から七戸まで、毎月の句会に出席されて、町の広報に小林凡石という名前で俳句を投稿されておるかたでございます。幾つになってもふるさとを思う気持ちや行動には非常に感動をさせられております。

少し横道にそれてしまいましたが、それで小林市長は、先々月の10月27日で行われましたか、南部市ゆかりの9市町村でつくる平成・南部藩の一日国替え事業で、我が七戸町で一日領主を務めるために来町、この議場で、全課長の前で八戸中心市街地活性化事業

に取り組んでいる様子や、中核市の移行が来年に決定になることなどを語られたようでございます。

また、我が小又町長も、昨年八戸市役所において、このような一日領主を出されたと伺っております。

次に、もう一方のみちのく銀行頭取の高田邦洋氏であります。この方は皆様よく御承知の元天間林村村長の、今は亡き高田藤夫氏の男性ばかりの兄弟で5番目の方で、昭和32年5月18日誕生なされ、三本木高校から日大の法学部を卒業後、現在の株式会社みちのく銀行に入行。1999年の青森市の小柳支店長を振り出しに、経営企画部長、執行役員づきの常務、副頭取、そして2013年6月より、代表取締役頭取兼執行役員として、その歩みは実に順調、見事な出世ぶりと言うよりほかないと思います。

みちのく銀行は、発足以来40年を迎え、県内外での営業店舗数は99行、海外に1店舗ございますので、合わせて100店舗、行員1,300人余の大企業であります。一目でわかるようなお人柄といい、話す口調といい、まさにジェントルマンであります。頭取にふさわしい方であり、高田村長とは、まるで正反対と申し上げれば、お叱りを受けまされども、実に御立派な方でございます。

こうした御両人のお人柄等を、時間の関係で正確にお話しできませんでしたが、御両人は、この小さな町にとって大きなかかわりを持ち、青森県民をリードしていることは、我々町民にとっても大きな財産でありますし、誇りだと思っております。

今や青森県の政界、そして財界の指導者として、一番、光輝いているお二人ではないでしょうか。この御両人の日常生活は、恐らく分刻みの毎日だろうと思いますが、ふるさと七戸町のためにも、忙しい中からぜひ来町なされ、七戸町の方向性や、ふるさとにいろいろな思いを抱いておられることでしょうか、思いのままに、ぜひ御講演をお願いしたいと思うのですが、町長、この件について、どのようにお考えでしょうか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） それでは、お答えいたします。

当町にゆかりのある方々が、さまざまな分野や業種において御活躍されていることは、町としても大変喜ばしいことであり、町の誇りでもあります。

厳しい社会情勢のもと、今後も町民の皆様と一体となった、まちづくりを実践し、21世紀に生きる七戸町を創造していくためには、当町にゆかりのある町外で活躍されている方々からの御意見や、御提言をいただくことは大変貴重であり、重要なことであると認識しております。

御質問の当町にゆかりのある小林市長、高田頭取を迎えての講演会の開催についてですが、公務で大変お忙しい御両人ですので、日程調整など難しいことが予想されますが、前向きに検討したいと思います。

○議長（田嶋輝雄君） 14番議員。

○14番（白石 洋君） ぜひ、その講演ができますように、町長からも一肌脱いでいただきたいと、こう思っておりますので、よろしく願いをいたしたいと思えます。

次に、台湾の明華中学校と我が町の中学校の交流についてをお伺いしたいと思えます。

去る10月17日でしたか、教育委員会のほうから、台湾明華中学校教育旅行の受け入れについてということで案内をいただきました。行事の内容は、歓迎セレモニーに始まり、太鼓や剣道、吹奏楽、合唱等を体育館の中で見学することができました。午後からは英語の交流事業も行われたようでありませけれども、見学できた分野のどれもが立派で、感動して、その一つ一つを見てまいりました。我が七戸中学生もやるもんだなど、そんな感じを抱いて、実にお見事でした、こう思っております。

こうした状況を見詰めながら、台湾明華中学校との交流に至った経緯と、今後の交流計画についてをお伺いしたいと思えます。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） お答えいたします。

当町のグリーンツーリズム事業は、七戸町かだれ田舎体験協議会が、県内の農家民泊組織6団体と研究機関2団体で構成される、アジアからの観光客誘致推進協議会に加盟し、台湾やタイなど、アジア地域からの農家民泊の観光客や、中学校、高校の教育旅行生の受け入れを中心に展開し、国際交流活動を推進してきております。

今回、台湾の高雄市立明華国民中学校と、当町中学校が交流に至った経緯でございますが、明華中学校は、本年の5月に三村県知事が明華中学校を表敬訪問する計画となっております。これまでも松本議員、あるいはまた瀬川議員から国際交流への強い要望があったことから、私と教育長、それから生涯学習課長の3名が帯同訪問したところ、明華中学校側から、教育旅行の行程の中で、ぜひ七戸町を訪問し、交流したいとの強い申し入れがあり、今回の交流が実現したところです。

次に、今後の計画であります、経済団体の交流や観光、そして教育も視野に入れ、農林課、商工観光課、教育委員会、つまり町と台湾の学校や団体等との交流を進めていきたいという予定としており、その交流のスタートに当たって、来年度は明華中学校への中学生海外派遣事業を実施したいと考えております。

5月の台湾訪問時には、高雄市の経済団体である国際同済会の会員の方々とも交流を深めてまいりましたので、中学生交流事業と合わせて、農産物輸出など、経済交流や観光交流、こういったものにも、つながるような事業を展開してまいりたいと、そのように考えております。

○議長（田嶋輝雄君） 14番議員。

○14番（白石 洋君） 次に聞こうとしているころまで、何か答弁されたような感じもしないわけでありませけれども、いずれにしても書いてきたとおり、質問していきたいと思えます。

今後も台湾を初め、こうしたアジアからの交流も、ますます盛んになっていくだろうと

思います、我が国でも観光立地をと、大きなうたい文句に、予想された外国人旅行者が2,000万人を超え、2020年の東京オリンピックに向けて4,000万人、そして2030年までに6,000万人の外国人旅行者を迎えるということでありますので、我が国の人口の半分が観光客で埋まるようになるというわけでありますので、どんな状況でこの日本が変化していくのか、想像もつかないほどの人口減少、そしてまた英語力、外国語力が必要に、叫ばれるものと思いますので、今後に向けて、ぜひこの交流の糸口をしっかりとつかみ、子供たちを海外、大空に羽ばたかせてやりたいと、そういうふうに思いますがいかがでしょうかということでありましたが、先ほどお答えいただきましたので、これには答弁は必要ないと思いますが、そこでこうしたときに、これまでにずっと長いこと国際交流が、七戸町に協会があったわけでありますけれども、3年ぐらいになりますか、国際交流協会がなくなりましたけれども、私はぜひこの機会に、この国際交流協会を復活させて、広く子供たちのため、あるいはまた町民のためにも、こういうふうなことに出かける機会をつくって、この交流資金の協力をも、町民の皆さんとともに呼びかけてあげることが必要ではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

それからもう一つは、台湾には、先ほど延べましたように、町長、担当課長、教育長の3人が実情調査に行かれたようでありますが、我々議会も、この台湾の明華中学校との父兄会というのでしょうか、その方々の交流を含めて、場合によっては農産物等においても、何かしらの交流の糸口をつかみたいものと思っておりますが、ぜひ、この実現をさせてもらいたいと思うのですが、町長、いかがですか、お答えをいただきたいと思います。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） まず、国際交流協会の必要性についてということでありますが、ちょっとダブリました。けれども、国際交流事業の推進への大きく、今まで推進ということやってきましたが、その参加者の減少、あるいはまた、そういった中での事業継続、こういったものを考慮した結果、その平成25年からの中学生の派遣事業、これは中止し、平成26年3月には国際交流協会の解散、これに至ったということであります。しかしながら全国的に外国人居住者、あるいはまた旅行者、これが非常にふえていると。いわゆるグローバルな時代、議員おっしゃるとおり、急激に進む国際化への対応というのは急務であり、外国人との触れ合いや、交流の場を数多く提供してきた国際交流協会の活動や、役割というのは大変大きいものがあったというふうに思います。

現在、国際交流事業、これは町が実施主体となり、小中学生が外国人と触れ合い、英語学習で交流するイングリッシュ・デイ、あるいは福島県ブリティッシュヒルズでのイングリッシュ・キャンプなど、事業を実施しております。

また、今年度より台湾との国際交流も始めておりますので、当面は町が主体となり事業を展開しながら国際交流協会、この再設立、こういったものへの機運が高まるような環境というのを構築していかなければならないと。

ちなみに、台湾との交流というのは、今まで一方通行でありましたけれども、今度は双

方向の交流というので、これは意義あるものになると思います。

次に、議員の方々の台湾訪問というお話でありましたが、これからの計画として、経済団体あるいはまた観光、いわゆる具体的には農産物の輸出、そういったものも可能性はないのかということで、これらもそういうのを視野に入れた交流をしなければならないと思います。

ちなみに、中学生がおいでになったときに、父兄の方も一緒に来ました。そのときに、いろいろな業種の方がありまして、例えば日本の米、七戸の米、輸入したいと、非常に食べたらいきたいと、すしにも使えると、こういうお話もありました。ですから、いろいろな可能性がこれはこれから出てくるというふうに思っております。したがって、そういった可能性を探るといいますか、調査あるいはまた研究、研修と、そういったことのために議員の台湾訪問、これもぜひお願いをしたいというふうに私も考えております。

そして、子供のみならず、いわゆる総体的な経済交流、あるいはまた観光面での交流、こういったものも含めた、いわゆるかなり中身の濃い、その交流事業というのを推進をしていきたいというふうに考えています。

○議長（田嶋輝雄君） 14番議員。

○14番（白石 洋君） 大変、前向きな答弁をいただきましてありがとうございます。ぜひ、そうなるように、ひとつお願いをしたいと思います。

それでは、3点目の質問に入りたいと思います。

旧七戸地区の商店街でのにぎわいや、イベントのあり方についてお伺いをしたいと思います。

今はどこの市町村においても、商店街はシャッター街となり、町のにぎわいなど、そういう夢のまた夢と言わざるを得ないような、実に悲しい現状が続いております。ただただ残念と言うよりほかに、本当に慰めの言葉もないくらいであります。しかし、だからといって、あの商店街を放っておくこともできません。自分たちの力で、できるだけ少しでも知恵を働かせて、何とか生きていく方法をやっぱり探り当てなければならないと思います。

今、小川町付近での、先ほど町長の答弁にもあっておりましたけれども、石源さんのお店の一部で高校生の若い方たちがバスを待ったり、あるいはまた友達の交流の場所として活用しております。そこでもう一步突っ込んで、町では陶芸教室を開くべき場所や指導者を探していると伺っております。私はそうした中で、外国人の方々が道の駅などを利用してきた際にも、ぜひ案内人をつけて、この町なかにもおりにこられるように、空き店舗での交流ができる場所があってもいいのではないかと。そして、来た外国人の方の子供さんたちと、うちの町の子供たちが交流できるようになるとすれば、いわゆる英語の勉強やなんか自然に身につけるような、そういうところまでをやはり追求するような考え方を持っていかなければならないのではないかなど、こう思ったりもしていますし、この米軍基地の中でも、生活している方々の協力のもとに、ぜひこの触れ合いの場所等を知人や友人を

通して、何とか探し当てることができないものかと私はいつも思っているものですから、何とかしてあげなければならないなど、こう思っておるわけであります。それこそ気取らないで英会話教室ができる場所、そしてまた、最近少なくなってきましたけれども、お焼き屋さんとか、簡単な総菜屋さんも、あの通りにあっていいのではないかというふうに思っておるものですから、できるだけ頑張ってもらえる商店街にしていきたいものだと思うのですが、町長、この辺のあたり、なかなか難しいのでありますけれども、ひとつ何とかみんなで知恵を出し合っていきたいと思っておりますが、町長のお考えをお聞かせいただきたいと、こう思っております。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） 今までの議会の中で、旧市街地、店が一つ、また一つと、いわゆる火が消えていくということで、商店街の皆さんもいろいろな努力をされていますが、なかなか思うに任せないと。まちの駅もやめると。そういったことで、もうなかなか後がないと。行政主導で、ひとつ何とかという答弁をしたことがありました。まあその中でいろいろ検討した結果、商店街での、また別な形でのいわゆる人通りといいますか、人の流れができるよということ、石源さんの御協力によって店舗内に交流スペースを設けて、理科教室、あるいはまた英会話教室、こういったものを数回開催をしております。

ちなみに、大体30人から40人ぐらい毎日、平日であれば高校生たちが来ていると。そこでは、ありがたいことに、商店街の皆さんもそこで、いわゆるワンコインで買えるパンであるとかお菓子であるとか、そういったものを提供していただいているということで、また、隣接した、あるいはまた向かいにある商店の方々も、せっかくこういう流れができたのであればということで、高校生向けのいろいろな工夫を凝らした食べものの提供であるとか、あるいはまた確実に人が来るものですから、例えば文房具屋さんでも、売り上げがやっぱり伸びているということだそうでありました。やはりこういったことを利用して、できればさっき言った、その他の店の方とも、これを一つのきっかけとして大きい流れにしていけるように、していきたいものだと思っております。

あとは陶芸であるとか、あるいはまたその他、例えば裂き織りなんかも、どこか空き店舗を利用したそういったことができないかということで、今、具体的な場所を打診をしたり、そういうことで高校生のみならずいろいろな年代の新たな人通りとにぎわい、こういったものにつなげていけるように、していかなければならないということで、今やっております。

当初の構想は、英会話の関係でも、まだまだいろいろやる予定でありましたが、なかなか一気には行かない。一石二鳥、三鳥になったというものでありますから、なかなか一気に理解をしてもらえない部分もありますけれども、地道にこういったものは、これからも進めていくようにしていきたいと思っております。

あと、既存の商店の皆さんも、せっかくこういった流れがありますので、いろいろ工夫を凝らした対応というのをやれば、恐らくあわせて、ある一つの間人相手のが、また生ま

れてくるのではないかというふうに考えております。

○議長（田嶋輝雄君） 14番議員。

○14番（白石 洋君） 今、町では、春のつつじ祭りから、秋のオータムフェスタの、これまでいろいろなイベントをやっておられます。担当課であります商工観光課では、年から年じゅうこのイベント行事に追われて、行事が終了する後の反省や、あるいはまた、次回の開催までの行事の中身の再検討をされる間もなく、行事が続いているところもあるかと思われまます。

合併10年、そろそろこの辺でイベントを、町発展のどの部分と結びつけていくのか、中止していいもの、あるいはまたそれぞれの団体に運営していただくもの、イベントを合流させていいもの等を、その後この予算の思い切った投入を図って、大々的にやっていったいいものもあると思われまますので、この機会にイベントの見直しも必要なのではないかと思われまます、いかがでしょうか。

そしてまた、イベントの開催によって人々が集まってくるわけでありまますので、どうしてもこの駐車場の確保が大事でありまますので、商工会あるいはまた商店街、地主の皆さんともじっくりと相談をなされて、少なくとも最小限砕石等ぐらいを入れて駐車場にして、さらにイベントを盛り上げていく必要があろうかと思われまます、この件についても御質問させていただきたいと思われまます。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） 町内、数多くのイベントを開催しておられます。特に商店街においては、毎月のように開催をされ、そのほとんどについては各種団体、これが主体的に実施しておられます。もちろん商工観光課、これもいろいろな面で側面から支援をしたりということで、かなりの数があるというのは確かでありまます。

このイベントの見直しについては、今後、主催団体とも協議をしながら、より効果的な内容になるよう取り組んでまいりたいと、検討してまいりたいと考えておられます。

次に、イベントには駐車場、これが必要ということで、いろいろなイベントありまましたけれども駐車場がないと、町なかに、こういったおしかりも、実は何回か受けたことがあります。これまでも更地、空き地、こういったものをお借りして、そして開催してまいりましたが、今後、主催者側と相談をして、こういったことを展開していかなければならないと思われまます。

また、砕石を敷いての駐車場としての利活用とありまますけれども、町内にそれに向いたようなそういった実は更地というものもないわけではない。見たところ、そういったものは、うちの基礎のコンクリート部分を壊して、ある程度の整地をすれば駐車場になるようなところも実はありまます。当然これは民間からお借りしなればならないと思うのですけれども、そういったものはこれから十分な検討していくと。何をやるにも、やっぱり駐車場が一番ということでありまますので、それはあわせて検討をしてまいりたいと思われまます。

○議長（田嶋輝雄君） 14番議員。

○14番（白石 洋君） では、そのようにひとつよろしくお願いを申し上げたいと思います。

最後になりましたが、4点目の質問であります、まちづくりの方向性についてお伺いをしたいと思います。

旧七戸町と旧天間林が合併し、10年の月日を迎えることができましたことは、実にすばらしいことだと思っております。それは、福士、小又両町長による賢明なリードと偏ることのない行政を推し進めてきてくれたからであり、そこにいさかいのない新七戸町がここにあるものと私は信じております。

また、合併後につくられた第一次長期総合計画も、さまざまな点を評価しながら、その時々に合わせて、かじをしながら、今年度から第2次長期総合計画を策定をいたしましたし、過疎地域自立促進計画についても、法の一部改正を念頭に置きながら、5カ年計画の策定を終えております。

これからも、こうした長期総合計画に基づいて、一つ一つを吟味しながら、財政とにらみ合わせながら、各事業や年中行事を展開させ、我が町のまちづくりの方向性を示していく必要があるわけであります。

そこで、町長にお尋ねをしたいと思います。

先般、9月定例会において澤田議員から、来年4月に行われる町長選挙に関しての質問があり、突然だったためか、町長からは、意欲はありますが、これは一人で決めるわけにはいきませんので、後援会とも相談をしながら早目に判断したいと思っておりますと答弁されておりましたので、あれから3カ月ほどの月日が経過しておりますので、この機会に、3期に向けてどのような結論を出して、今後のまちづくりの方向性を示していくかということについて、熱い胸の内をぜひお聞かせ願いたいものだなと、こう思っておりますが、町長いかがですか。

○議長（田嶋輝雄君） 町長。

○町長（小又 勉君） お答えいたします。

実は、あれ以来、後援会、あるいはまた思いを同じくするといひますか、一にする方々とも相談をいたしました。強い推薦をいただきました。大変ありがたいことであると思っております、したがって結論から先に言いますと、いろいろな思いを持って、3期目に向けての立候補をしたいと、出馬をしたいと、そういう思いを持っております。

おかげさまで、合併以来10年と言いましたが、もう少しで12年になろうとしております。本当に長いと。その間、副町長1期、町長約2期近くになりました。町政にいろいろ参画をし、いろいろな事業というのを進めてまいりました。うまくいって役割を終えて完了したもの、あるいはまだまだ途中のものもあります。手をつけようと思ってもつけれないと、やっぱりそういったものもありますし、時代が非常に速く動いてますから、もう、この時代の変化とともに、いろいろな課題というのは出てきています。あるいはまた、特に言うのは少子高齢化、これはもう全てに関連をするということで、町の発展とい

うのは、もう本当に阻害する非常に大きな課題であり、恐らくこれも、高齢化というのはピークがあと10年余り、そこから今度は若返っていくと。ただし、人口は減っていくと。その辺をどうやってうまくまちづくりにつなげていくのか、非常に大きいし、難しい課題があると思います。あるけれども、やっていかないといずれは消滅すると町議員がおっしゃいました。今度は、生まれてくる子供の数がゼロになる時代も来るかもしれない、何もしなければということでもあります。何としても、やっぱりそういったものは阻止しなければならないし、そういう若い発想でいくと、地域は生き返っていくと、そういうことだと思います。

それから、実はこの決断に至って、いろいろな町政推進のこれからの道筋といいますか、方向性、六つほどにまとめました。それ全部話すと長くなりますので、その中で、やはり何ととっても、将来この地域は、七戸町は県南地方、その中でも特に上十三地域のやっぱり中心になると。いろいろな条件、新幹線の七戸十和田駅、駅周辺も大分いろいろなものが立地してきました。それから、年々利用者がふえています。それから、道路の関係も非常に今整備されて、上北自動車道、あるいはまたそれに付随した国道394号のバイパスの整備だとか、いずれは下北半島縦貫道路も、七戸が起点ですから、ここから今度はスタート。下北半島のつけ根というか、それになると思います。いろいろな条件をとってみても、やっぱりそういった中心になる条件が自分にあると思います。

それから、今どんどん人口が減っていっていると。減ったら減ったなりのまちづくりとこのを書いて、やはりそれに合わせた視点で考えていかなければならない。いつまでも分散した発想では、やはりだめだと思います。ですから、きのうも一般質問の中でもありました。体育施設、できれば文化施設を併設した、早くそういったものを町の中心としてぼんと打ち出すべきである。いずれそこに公共施設、こういったものを集約し、新しい町の中心とこのをやっぱりつくっていくべきだと思っています。いかに早くこういう発想に向かっていくのかが、やっぱりいろいろな自治体との勝負ということになりますから、その辺、勝敗の分かれ目になると思います。こういった思いを持って実現をしたい、あるいはまた、その方向はつけたいと、こういった思いで4月の町長選挙に向けて進めていきたい、そう思っていますので、ひとつ御理解のほど、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。

○議長（田嶋輝雄君） 14番議員。

○14番（白石 洋君） 新幹線七戸駅前を中心としたいろいろな思いで、熱い胸の中を語っていただきまして、本当にありがとうございました。どうぞ、4月16日ですか、もう日程も決まっておりますので、ひとつ健康には十分注意をなされて、大いなる健闘をしていただければいいなど、こう思っております。

以上をもって、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（田嶋輝雄君） これをもって、14番議員、白石洋君の質問を終わります。

以上をもって、一般質問を終結します。

○散会宣告

○議長（田嶋輝雄君） 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

なお、明日の本会議は、午前10時から再開します。

本席から告知します。

本日はこれで散会します。大変お疲れさまでした。

散会 午前11時57分